

買うか狩るか

よしだすすむ ― デザインする人 [字と図]

『アーバンサバイバル入門』 服部文祥/デコ/2017年



僕が、高校生の時に、この本に触れていたとしたら、その後の人生は大いに変わったんじゃないかと思う。

書評をしてほしい…というお話をいただいた時「高校生の自分に、もし一冊あげられるなら」という視点で考えてみた。そうしてまず浮かんだ本が、これだ。

ちなみに僕は、首都圏で生まれ、首都圏で育った。それが、僕の『普通』になった。そして、普通に高校生になると、いきなり『進路』とかいうやつが出てくる。それは定食屋のメニューのように、これから食べたいものを一つ注文しなければならない。その中から、本当に食べたいものを選べるのだろうか。

それから、なんとなく普通に時が流れた。二十歳も超えて、バイトやら仕事でお金をもらえるようになると、なんだか一人前になったような気がしてくるのだけど、僕の『普通』は、そんなに成長していなかった。

それに気がついたのは、ある日、イヌイットの子供が、一人前になるために、お父さんと様々な漁へと一緒についていくドキュメンタリーを観た時のこと。テレビの中の子供は、記憶では、ひと桁代の歳だったが、それはもう、僕の何十倍もたくましい『男』だった。

結構大人になってから、僕の『普通』が顕微鏡でのぞいた世界であることを知ったのだった。その普通は、とても小さかった。

『普通』は、自分次第で、いかようにも変えられることを、高校生の自分に教えてあげたい。この本は、そのための一歩を踏み出す『ドア』のようなものである。

ネタばれしたくないので、本の中身は、なるべく語りたくないのですが、あえて一つだけ紹介するなら、この本の中には、一部モザイクをかけたくなるような内容が含まれている。それでも、のぞいてみてほしい。

食べ物を自分で調達するための方法が載っているのである。それは、きっと、あなたの『普通』に影響します。普段行くスーパーマーケットが、別のモノに見えてくるはず。そして、ぜひ、自分の『普通』と比べてみてほしい。🍌